

活用編 もくじ

活用編 もくじ.....	1
--------------	---

1章 パソコンの機能を活用する.....5

1 画面を調整する.....	6
1 画面の明るさを調整する.....	6
2 パソコンの画面をテレビや外部ディスプレイに映す.....	6
2 サウンド.....	13
1 スピーカーの音量を調整する.....	13
2 ヘッドセット/ヘッドホン端子.....	15
3 ヘッドセットを使う.....	16
4 ヘッドホンを使う.....	17
5 ヘッドセット/ヘッドホンを選択する.....	18
6 音響を補正する.....	19
3 Webカメラを使う.....	20
1 Webカメラのアプリケーションについて.....	21
4 ハードディスク.....	22
5 CD/DVDを使う ードライバー.....	23
1 使える記録メディアを確認しよう.....	23
2 DVDの映画や映像を見る.....	24
3 CD/DVDを使うとき (セット).....	26
4 CD/DVDを使い終わったとき (取り出し).....	29
5 DVD-RAMをフォーマットする.....	31
6 メディアカードを使う ーブリッジメディアスロットー.....	33
1 使えるメディアカードについて.....	33
2 メディアカードのセット/取り出し.....	34
7 USB対応機器を使う.....	38
1 USB対応機器の取り付け/取りはずし.....	39

8	LAN機能を使う	41
1	LAN接続はこんなに便利	41
2	有線LANで接続する	42
3	無線LANで接続する	44
9	Bluetooth機能を使う	46

2章 システム環境を設定する **49**

1	パスワードセキュリティ	50
1	ユーザーパスワード	51
2	スーパーバイザーパスワード	54
3	HDDパスワード.....	56
2	起動ドライブの変更	61
3	東芝HWセットアップ	62
4	BIOSセットアップを使う	63
1	起動と終了/BIOSセットアップの操作	64

付録 **67**

1	ご使用にあたってのお願い	68
2	記録メディアについて	76
1	CD/DVDに書き込む前に.....	76
2	使えるCDを確認しよう	78
3	使えるDVDを確認しよう.....	79
4	読み出し/書き込み速度と使用推奨メーカー.....	80
5	メディアカードを使うにあたって	82
6	記録メディアの廃棄・譲渡について	83
3	各インターフェースの仕様	84

4	OSの切り替えについて	88
1	64ビットを使用する場合	88
2	32ビットを使用する場合	89
3	OSを切り替える場合の操作と注意事項	90
4	Windowsの確認方法	91
5	BIOSについて	92



1 章

■ パソコンの機能を活用する

パソコン本体に用意されている、さまざまな機能について説明しています。

1	画面を調整する.....	6
2	サウンド.....	13
3	Webカメラを使う.....	20
4	ハードディスク.....	22
5	CD/DVDを使うードライバー.....	23
6	メディアカードを使う ーブリッジメディアスロットー.....	33
7	USB対応機器を使う.....	38
8	LAN機能を使う.....	41
9	Bluetooth機能を使う.....	46

1

画面を調整する

1章

パソコンの機能を活用する

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイを搭載しています。テレビや外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

1 画面の明るさを調整する

本体ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。

□ 輝度の調整方法

FN + **F2** : **FN** キーを押したまま、**F2** キーを押すたびに本体ディスプレイの輝度が下がります。

FN + **F3** : **FN** キーを押したまま、**F3** キーを押すたびに本体ディスプレイの輝度が上がります。

2 パソコンの画面をテレビや外部ディスプレイに映す

本製品の次のコネクタと、テレビや外部ディスプレイをケーブルで接続すると、接続した表示装置の画面にパソコンの画面を表示させることができます。

- イーサネット HDMI 出力端子

お願い テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 1 - 1 - パソコン本体への機器の取り付け／取りはずしについて」

参照 ▶ 「付録 1 - 1 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」

1 HDMI 出力端子に接続する／取りはずす

HDMI入力端子があるテレビや外部ディスプレイを接続できます。

メモ

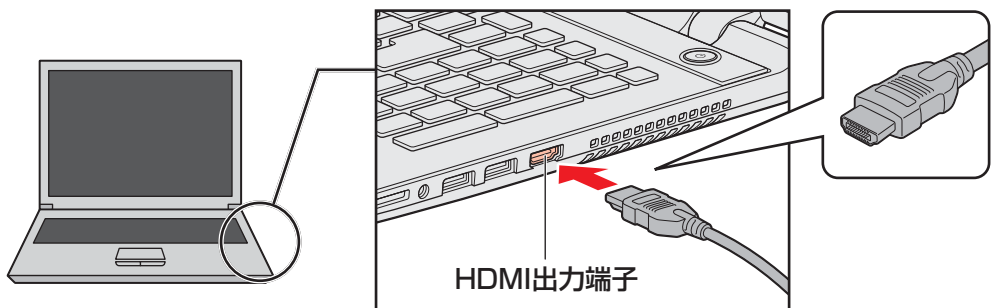
- HDMI対応機器すべての動作を保証するものではありません。
- 接続するHDMIケーブルは、市販のものを使用してください。
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ（**HDMI**）の表示があるケーブルを使用してください。
- 1,920 × 1,080 ドット以上の解像度の出力には、ハイスピードHDMIケーブルを使用してください。なお、使用時には解像度の変更が必要です。
- 表示可能な解像度はディスプレイにより異なります。
- テレビや外部ディスプレイへの出力形式の設定は変更できます。

参照▶「本節 2 - 3 表示を切り替える」

- 著作権保護された映像などをテレビや外部ディスプレイに表示するためには、HDCPに対応したテレビや外部ディスプレイを接続してください。

HDMI 出力端子に接続する

- 1 HDMIケーブルのプラグをテレビまたは外部ディスプレイのHDMI入力端子に差し込む
- 2 テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れる
- 3 HDMIケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のHDMI出力端子に差し込む







メモ

- HDMI接続で、テレビまたは外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあけてください。

□ 音声の出力をパソコン本体のスピーカーからテレビなどに切り替える

HDMIケーブルでテレビや外部ディスプレイを接続すると、自動的に音声の出力先がテレビや外部ディスプレイに切り替わります。

テレビや外部ディスプレイを接続しても音声が変わらない場合は、次の設定を行ってください。

- 1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ ハードウェアとサウンド] → [ サウンド] をクリックする
[サウンド] 画面が表示されます。
- 3 [再生] タブでテレビのアイコン () がある項目を選択し、[既定値に設定] ボタンをクリックする
- 4 [OK] ボタンをクリックする

この設定を行うと、パソコン本体から音声が出されなくなります。テレビや外部ディスプレイを取りはずし、パソコン本体からの音声出力に戻す場合は、手順 **3** で [スピーカー] を選択し、[既定値に設定] ボタンをクリックしてください。

HDMI 出力端子から取りはずす

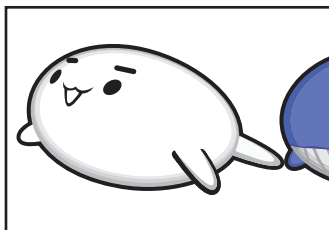
- 1 HDMI 出力端子からケーブルを抜く

2 表示を切り替える

テレビ／外部ディスプレイを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

■ 本体ディスプレイ、またはテレビ／外部ディスプレイだけに表示

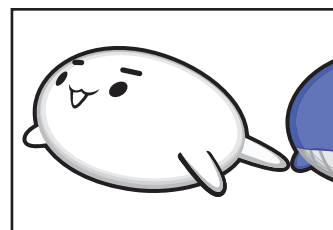
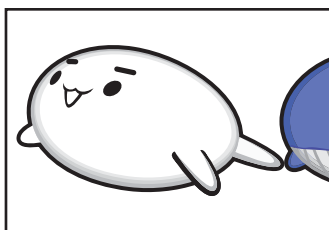
いずれかの表示装置にのみ、画面を表示します。



■ 本体ディスプレイとテレビ／外部ディスプレイの同時表示

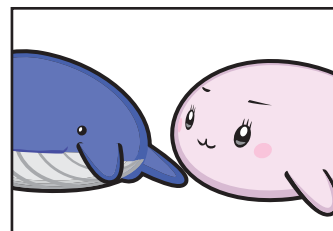
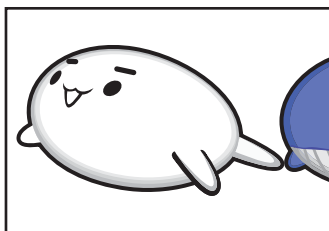
● クローン表示（複製）

2つの表示装置それぞれに画面を表示します。



● 拡張表示

2つの表示装置を1つの大きな画面として使用（拡張表示）します。



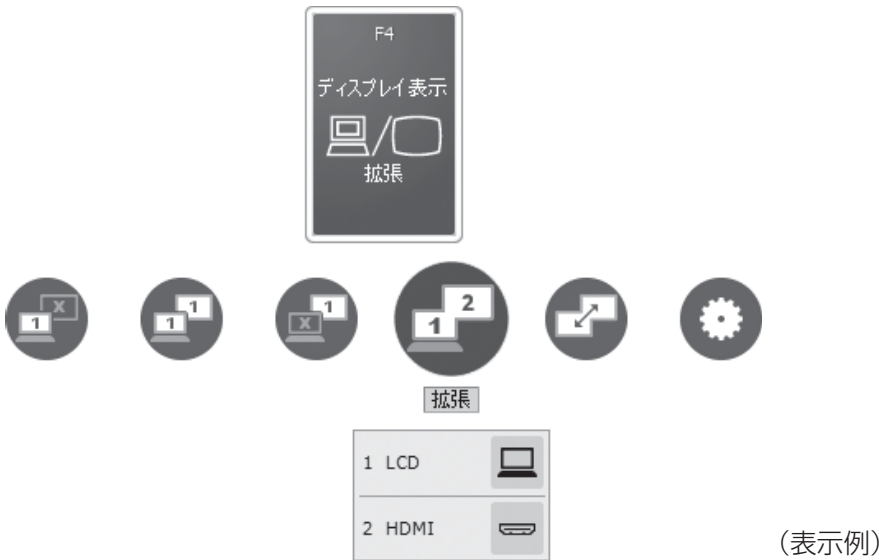
テレビ／外部ディスプレイに表示するには表示装置の設定を行ってください。



- テレビ／外部ディスプレイと本体ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定に合った色数／解像度で表示されます。
 - 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度が変更される場合があります。本体ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
 - テレビ／外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、テレビ／外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。
 - 映像を再生するアプリケーションを起動しているときは、表示装置を切り替えられません。使用する表示装置を変更したい場合、先に表示装置を切り替えてから、アプリケーションを起動してください。
なお、ご使用の環境やアプリケーションによりクローン表示、拡張表示での再生はサポートしていません。
 - 著作権保護された映像を、HDMI出力端子に接続したテレビ／外部ディスプレイに表示したい場合は、テレビ／外部ディスプレイだけに表示するよう設定してください。
 - 「電源オプション」で省電力機能を設定してテレビ／外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スリープに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。表示が復帰するまで10秒前後かかることがあります。故障ではありません。
-

FN + F4 キーを使う

FN キーを押したまま **F4** キーを押すと、「TOSHIBA Flash Cards」の表示装置を選択する画面が表示されます。



* アイコンの一覧です。実際は接続している表示装置に応じて切り替え可能なパターンのみ表示されます。

上から、現在の表示装置が表示されたカード、切り替え可能なパターン、現在設定されている表示方法の詳細を示しています。

FN キーを押したまま、**F4** キーを押すたびに、大きなアイコンが移動します。選択する項目が大きなアイコンに変わったところで、**FN** キーをはなすと表示装置が切り替わります。

上記画面の例では、メインディスプレイに本体ディスプレイを使用し、HDMI接続の外部ディスプレイを接続して拡張表示しています。

カードの下に表示されるアイコンについて説明します。

アイコン	表示	概要
コンピュータのみ		本体ディスプレイだけに表示します。
複製		本体ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイにクローン表示します。 ^{*1}
外部のみ		テレビまたは外部ディスプレイだけに表示します (本体ディスプレイには何も表示されません)。 ^{*1}
拡張		本体ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイに拡張表示します。 ^{*1}
任意のプロファイル名		表示設定をプロファイルとして登録している場合、登録プロファイルが表示されます。アイコン右下に★が表示されます。
ディスプレイの入れ替え		拡張表示時にメインディスプレイを切り替えます。
設定		プロファイルの登録/変更/削除を行います。
保存		現在の表示設定をプロファイルに登録します。このアイコンは、[設定] アイコンの画面で [保存オプションを表示する] にチェックをつけると表示されます。

* 1 テレビまたは外部ディスプレイを2台以上接続している場合、アイコンの右下に★が表示されます。表示装置を指定できます。

「TOSHIBA Flash Cards」の詳細は、「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプを参照してください。

参照 ▶ 「TOSHIBA Flash Cards」『基本編』

□ 表示装置を本体ディスプレイに戻す方法

現在の表示装置が本体ディスプレイ以外に設定されている場合、表示装置を本体ディスプレイに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、**[FN] + [F4]** キーを3秒以上押し続けてください。

表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指をはなしてから、**[FN] + [F4]** キーを3秒以上押し続けてください。

スピーカーの音量やWindowsのシステム音を調整する方法について説明します。
また、ヘッドセットやヘッドホンを接続することができます。

1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、次の方法で調整できます。

音量はWindowsで制御しているため、Windows起動時や電源を切っているときは、音量変更はできません。

1 **FN** + **F9** または **FN** + **F10** キーで調整する





1 音量を小さくしたいときは **FN** + **F9** キー、大きくしたいときは **FN** + **F10** キーを押す

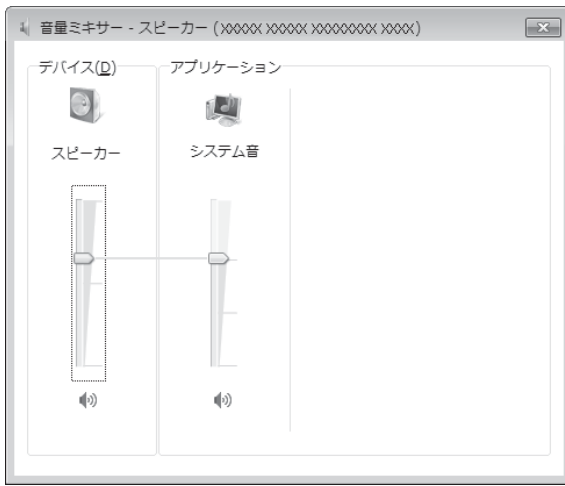
FN キーを押したまま **F9** キーを押すたびに音量が小さくなり、**FN** キーを押したまま **F10** キーを押すたびに音量が大きくなります。

2 音量ミキサーから調整する

1 章

パソコンの機能を活用する

- 1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ ハードウェアとサウンド] → [ システム音量の調整] をクリックする
[音量ミキサー] 画面が表示されます。
- 3 各項目でつまみを上下にドラッグして調整する
[ミュート] ボタン () をクリックすると消音 (ミュート) になります。



(表示例)

□ 音量ミキサーの各項目

音量ミキサーの各項目では、次の音量が調整できます。

スピーカー	スピーカーの音量を調整します。
システム音	Windowsのプログラムイベント (Windowsの終了、システムエラーなどの動作) で再生されるサウンド設定の音量を調整します。

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。

参照 ▶ 詳細について『アプリケーションに付属している説明書』

 **メモ**

- インテル® ハイ・デフィニション・オーディオ準拠。
- キャプチャソフトなどを使用して、パソコンで再生中の音声を録音することはできません。

2 ヘッドセット/ヘッドホン端子

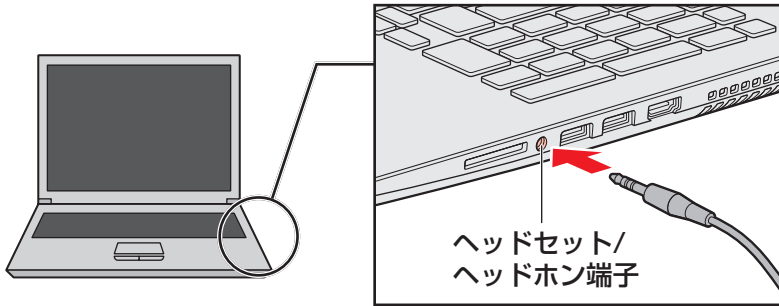
本製品には、ヘッドセットやヘッドホンを接続できます。

お願い ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 1 - パソコン本体への機器の取り付け/取りはずしについて」

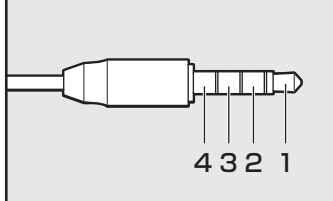
参照 「付録 1 - 1 - ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって」



1 使用できる端子の種類

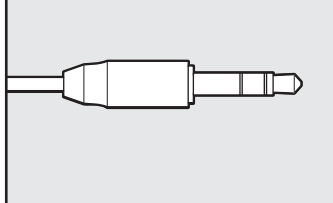
本製品で使用できる端子の種類は次のとおりです。

4極ミニジャック



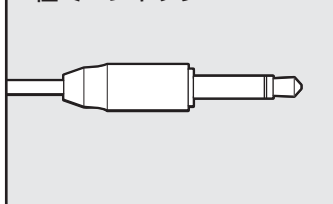
- プラグは直径3.5mm4極ミニジャックタイプが使用できます。
- 左図の数字は、次の内容を示します。
 - 1：ヘッドホン左
 - 2：ヘッドホン右
 - 3：グラウンド
 - 4：マイク

3極ミニジャック



- プラグは直径3.5mm3極ミニジャックタイプが使用できます。
- マイク、ヘッドホンが使用できます。

2極ミニジャック



- 直径3.5mm2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを搭載し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するヘッドセットを使用してください。

すべてのヘッドセット、ヘッドホンに対応するものではありません。

3 ヘッドセットを使う

ヘッドセットを使うときは、ヘッドセット/ヘッドホン端子に接続します。

1 ヘッドセットの接続と取りはずし

1 ヘッドセットのプラグをヘッドセット/ヘッドホン端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドセット/ヘッドホン端子からヘッドセットのプラグを抜きます。

2 ヘッドセットの音量調整

ヘッドセットの音量は **FN** + **F9** キーと **FN** + **F10** キー、または Windows の音量ミキサーで調節してください。

参照 ▶ 「本節 **1** スピーカーの音量を調整する」

3 パソコン上で録音するときの音量調整

接続したヘッドセットのマイクから録音をする際の音量を調節できます。

1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする

2 [ハードウェアとサウンド] → [Realtek HD オーディオマネージャ] をクリックする

[Realtek HD オーディオマネージャ] 画面が表示されます。

3 [マイク] タブの [録音ボリューム] のつまみで音量を調節する

4 [OK] ボタンをクリックする

4 ヘッドホンを使う

ヘッドホンを使うときは、ヘッドセット/ヘッドホン端子に接続します。
ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

1 ヘッドホンの接続と取りはずし

- 1 ヘッドホンのプラグをヘッドセット/ヘッドホン端子に差し込む
取りはずすときは、ヘッドセット/ヘッドホン端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホンの音量調整

ヘッドホンの音量は **FN** + **F9** キーと **FN** + **F10** キー、またはWindowsの音量ミキサーで調整してください。

参照 ▶ 「本節 1」スピーカーの音量を調整する」

5 ヘッドセット／ヘッドホンを選択する



ご使用のヘッドセット／ヘッドホンを選択します。

1 章

パソコンの機能を活用する

1 ヘッドセットまたは、ヘッドホンを接続する

2 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする

3 [ ハードウェアとサウンド] → [ Realtek HD オーディオマネージャ] をクリックする

[Realtek HD オーディオマネージャ] 画面が表示されます。

4 右側にある  をダブルクリックする

5 デバイスを選択する

選択するデバイスの をクリックして にしてください。



(表示例)

6 [OK] ボタンをクリックする

7 [Realtek HD オーディオマネージャ] 画面で、[OK] ボタンをクリックする




6 音響を補正する

TOSHIBA Audio Enhancer搭載モデルの場合、音響補正技術「TOSHIBA Audio Enhancer」により、音楽・映画などのコンテンツの再生において、小型薄型スピーカーで出にくくなった低域や高域の成分を最大限に補正することで、より原音に近い音質で楽しめます。また、「Auto Volume Adjustment」により、コンテンツごとに異なる音量を自動的に調整し、常に快適な音量で視聴できます。

お願い TOSHIBA Audio Enhancerの使用にあたって

- TOSHIBA Audio Enhancerは、パソコン本体のスピーカーに効果があります。その他のスピーカーやヘッドホンはサポートしておりません。
- 元の音源がひずんでいる場合など、コンテンツによっては、ノイズが発生することがあります。また、複数のアプリケーションで複数コンテンツを同時に再生した場合もノイズが発生することがあります。ノイズが発生する場合は、「TOSHIBA Audio Enhancerを有効にする」のチェックをはずして、TOSHIBA Audio Enhancerを無効にしてください。

1 起動方法

- 1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ ハードウェアとサウンド] → [ サウンド] をクリックする
[サウンド] 画面が表示されます。
- 3 [再生] タブで、[スピーカー] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックする
[スピーカーのプロパティ] 画面が表示されます。
- 4 [TOSHIBA Audio Enhancer] タブをクリックする

3

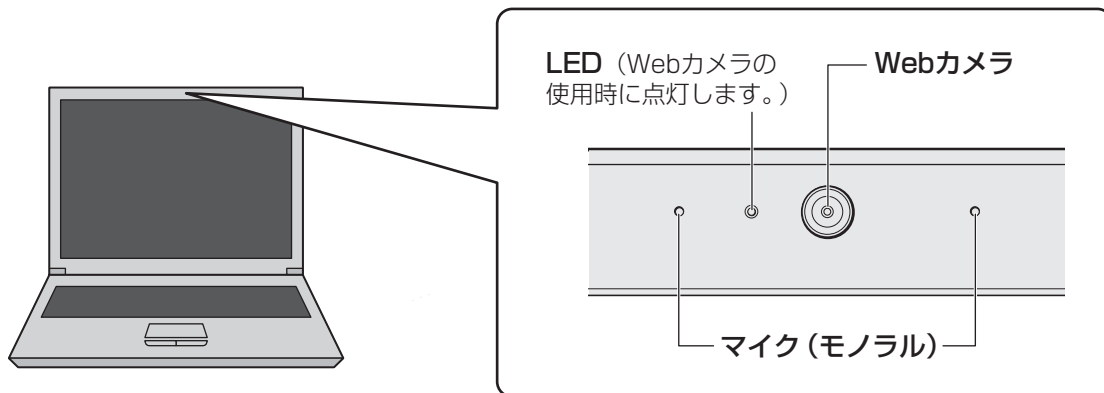
Webカメラを使う

1章

パソコンの機能を活用する

* Webカメラ搭載モデルのみ

Webカメラ搭載モデルの場合、本体の「Webカメラ」で写真撮影やビデオ録画などが行えます。



お願い Webカメラについて


- Webカメラに保護シートが貼ってある場合には、Webカメラを使用する前に、必ず保護シートをはがしてください。
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 **1** - **2** Webカメラについて」

1 Webカメラのアプリケーションについて





モデルによって、Webカメラ用のアプリケーションが用意されています。

1 起動方法

- 1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [マルチメディア] → [ウェブカメラアプリケーション] をクリックする
「東芝ウェブカメラアプリケーション」が起動します。

2 写真や動画を撮影する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の画面にポインターを重ねると表示される各ボタンの概要は、次のようになっています。

- [写真撮影] ボタン ()
画面に映っている画像を、写真として撮影します。
- [ビデオ録画] ボタン ()
画面に映っている画像を、映像として録画します。
- [アルバム] ボタン ()
撮影、録画したファイルの一覧を表示します。
- [設定] ボタン ()
撮影した画像や映像の保存先や、保存形式、映像品質を設定したり、画質調整などができます。

詳しくは、「東芝ウェブカメラアプリケーション」のヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

- 1 「東芝ウェブカメラアプリケーション」を起動後、[ヘルプ] ボタン () をクリックする

4 ハードディスク

1章

パソコンの機能を活用する

本製品には、ハードディスクドライブが搭載されています。
本体のハードディスクドライブは、取りはずしできません。
USB 接続型のハードディスクドライブなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い 操作にあたって

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- ハードディスクに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 **1** - **3** ハードディスクについて」

本製品には、DVDスーパーマルチドライブが搭載されています。

『安心してお使いいただくために』に、CD/DVDを使用するとき守ってほしいことが記述されています。

CD/DVDを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

1 使える記録メディアを確認しよう

使用できるCD/DVDの詳細と、書き込み速度については、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 2 記録メディアについて」

使用する記録メディアによっては、読み出しができない場合があります。

* 12cm/8cmディスク対応、Serial ATA接続、バッファアンダーランエラー防止機能付き。

○：使用できる ×：使用できない

	読み出し ^{*1}	書き込み回数
CD-ROM	○ ^{*2}	×
CD-R	○	1回
CD-RW	○	繰り返し書き換え可能 ^{*3}
DVD-ROM	○ ^{*2}	×
DVD-R ^{*4}	○ ^{*5}	1回
DVD-RW	○	繰り返し書き換え可能 ^{*3}
DVD+R ^{*6}	○ ^{*5}	1回
DVD+RW	○	繰り返し書き換え可能 ^{*3}
DVD-RAM	○	繰り返し書き換え可能 ^{*3}

* 1 対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

* 2 読み出し速度 CD-ROM：最大24倍速、DVD-ROM：最大8倍速。

* 3 実際に書き換えできる回数は、記録メディアの状態や書き込み方法により異なります。


* 4 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL (DVD-R Dual Layer) を含みます。DVD-R DLは、Format4での読み出し/書き込みをサポートしておりません。

* 5 記録メディアの状態や書き込み方法により、読み出しできない場合があります。DVD-R DLのみ追記されたデータは読み出しできません。

* 6 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL (DVD+R Double Layer) を含みます。



メモ 書き込みできるアプリケーション

- 書き込みに使用できる、本製品に用意されているアプリケーションは次のとおりです。
 - ・ トウシバ ディスク クリエイター TOSHIBA Disc Creator
「TOSHIBA Disc Creator」は、購入時の状態ではインストールされていません。
[スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール] からインストールしてください。
- 記録メディアにデータを書き込むとき、記録メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

お願い

CD/DVDに書き込む前に、書き込みを行うにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。
 - ▶ **参照** 「付録 2 - 1」 CD/DVDに書き込む前に
 - ▶ **参照** 「付録 2 - 1」 - 書き込みを行うにあたって

2 DVDの映画や映像を見る

DVDをセットする方法については、次の説明を参照してください。

参照 ▶ 「本節 3」 CD/DVDを使うとき (セット)」

Windows上でDVDを再生するには、「トウシバ ビデオ プレーヤー TOSHIBA VIDEO PLAYER」を使います。



メモ

- DVDを再生する場合、「TOSHIBA VIDEO PLAYER」を使用してください。
「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用してDVDを再生すると、表示が乱れたり、再生できないことがあります。

1 TOSHIBA VIDEO PLAYERで見る


ここでは、「TOSHIBA VIDEO PLAYER」でDVDの映像を見る方法を説明します。

「TOSHIBA VIDEO PLAYER」を使う前に、次の説明をよくお読みください。

参照 ▶ 「付録 1 - 8」 DVDの再生にあたって」



再生方法

- 1** Windowsが起動している状態で、ドライブにDVDをセットする
[自動再生] 画面が表示されます。
- 2** [DVDムービーの再生-TOSHIBA VIDEO PLAYER使用] をクリックする
[DVDムービーに対しては常に次の動作を行う] にチェックがついている状態で、手順 **2** の操作をすると、次回以降はDVDをセットすると自動的に「TOSHIBA VIDEO PLAYER」が起動します。

「TOSHIBA VIDEO PLAYER」は、[スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [マルチメディア] → [TOSHIBA VIDEO PLAYER] をクリックして起動することもできます。

「TOSHIBA VIDEO PLAYER」の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

- 1** 「TOSHIBA VIDEO PLAYER」を起動後、ポインターを描画エリアの下側に移動する
コントロールパネルが表示されます。
- 2** [その他] ボタン () をクリックする
コントロールパネルのサブメニューが表示されます。
- 3** [情報] ボタン () をクリックする
- 4** [ヘルプ] ボタンまたは [お読み下さい] ボタンをクリックする
[ヘルプ] ボタンで表示されるユーザーマニュアルと、[お読み下さい] ボタンで表示される説明の、両方を参照してください。

3 CD/DVDを使うとき(セット)

CD/DVDは、パソコン本体に搭載されているドライブにセットして使用します。


1章

パソコンの機能を活用する

お願い CD/DVDの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。
- 参照 ▶ 「付録 1 - 4 CD/DVDについて」
- 参照 ▶ 「付録 2 - 2 使えるCDを確認しよう」
- 参照 ▶ 「付録 2 - 3 使えるDVDを確認しよう」

メモ セットする前に確認しよう

- 傷ついたり汚れのひどいCD/DVDの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
 - 記録メディアにデータを書き込むとき、記録メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。
 - CD/DVDの特性やCD/DVDへの書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。
 - CD/DVDの種類によっては、取り出すときWindowsが自動的にセッションを閉じてしまう場合があります。このとき、確認のメッセージなどは表示されません。よく確認してからCD/DVDをセットしてください。このWindowsの機能を無効にするには、次のように操作してください。
- ① [スタート] ボタン () → [コンピューター] をクリックする
 - ② ドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [プロパティ] をクリックする
ドライブのプロパティ画面が表示されます。
 - ③ [書き込み] タブで [共通の設定] ボタンをクリックする
 - ④ [共通の設定] 画面で [シングル セッション ディスクを取り出すとき] と [マルチ セッション ディスクを取り出すとき] のチェックをはずし、[OK] ボタンをクリックする

ドライブに関する表示

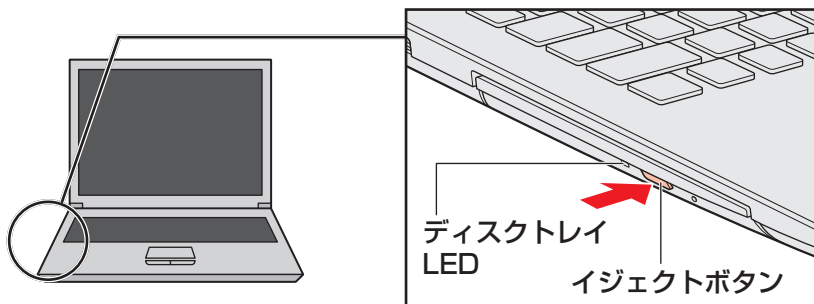
パソコンの電源が入っていて、ドライブが動作しているときは、ディスクトレイLEDが点灯します。

1 セットする

1 パソコン本体の電源を入れる

Windowsが起動します。

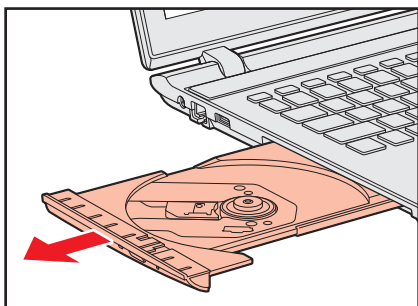
2 イジェクトボタンを押す



イジェクトボタンを押したら、ボタンから手をはなしてください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

* 搭載されているドライブによってイジェクトボタンやディスクトレイLEDの位置、ディスクトレイの形状は異なります。

3 ディスクトレイを引き出す

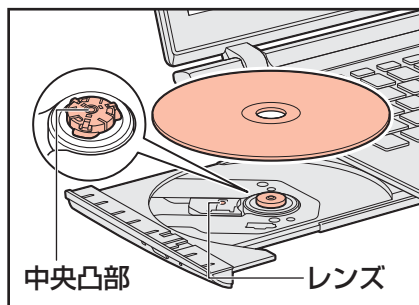


CD/DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 記録・再生面を下にして、CD/DVDの穴の部分でディスクトレイの中央凸部に合わせて、上から押さえてセットする

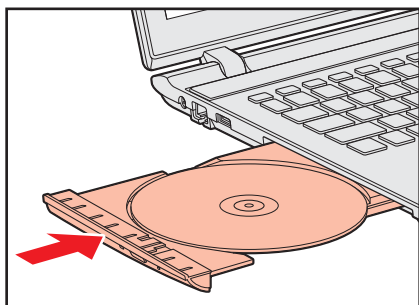
ディスクトレイが反らないよう、もう一方の手で支えてください。

このとき、レンズおよびその周辺（ディスクトレイの裏側も含む）に触れないように注意してください。



「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



4 CD/DVDを使い終わったとき（取り出し）

1 パソコン本体の電源が入っているか確認する

電源が入っていない場合は電源を入れてください。

2 イジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し出てきます。

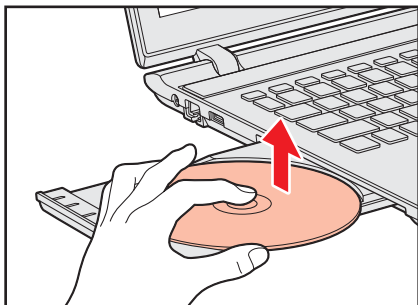
3 ディスクトレイを引き出す

CD/DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

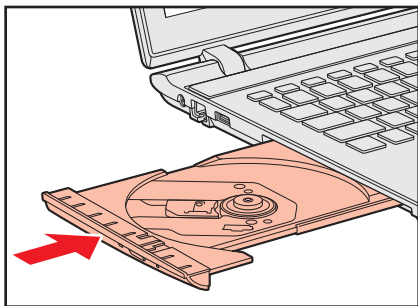
4 ディスクトレイの中央凸部を軽く押さえながら、CD/DVDの端を上 に持ち上げて取り出す

ディスクトレイが反らないよう、もう一方の手で軽く押さえてください。

このとき、レンズおよびその周辺（ディスクトレイの裏側も含む）に触れないように注意してください。



5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



CD/DVDが出てこない場合

電源を切っているとき、または休止状態のときは、取り出しの操作をしてもCD/DVDは出てきません。電源を入れてから、CD/DVDを取り出してください。

次の場合は、電源が入っていても、すぐにCD/DVDは出てきません。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係のLEDが点灯しているとき
- スリープ状態のとき

上記以外でCD/DVDが出てこない場合は、次のように操作してください。

● Windows 動作中の場合

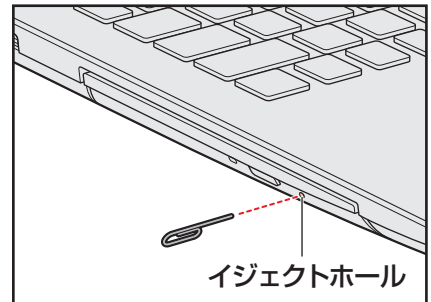
CD/DVDを使用しているアプリケーションをすべて終了してから、イジェクトボタンを押してください。

● パソコン本体の電源が入らない場合

⚠ 注意

- クリップなどを使う場合は、取り扱いに十分注意する
先端のとがった部分でけがをするおそれがあります。

電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押しってください。



* 搭載されているドライブによってイジェクトホールの位置は異なります。

5 DVD-RAMをフォーマットする

未フォーマットのDVD-RAMは、使用する目的に合わせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。

フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。

お願い フォーマットについて

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 2 - 1 - フォーマットについて」

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。

ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後の記録メディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。

ファイルシステムは「UDF2.50」「UDF2.01」「UDF2.00」のいずれかを選択することをおすすめします。


DVD-RAMのセクターの一部に不具合が生じた場合などに、通常のフォーマットとは違う「物理フォーマット」を行う場合があります。通常、購入したばかりのDVD-RAMに対しては、物理フォーマットを行う必要はありません。

物理フォーマットに対して、通常のフォーマットを「論理フォーマット」と呼びます。

なお、物理フォーマットを行ったあとは、論理フォーマットが必要となります。

1 論理フォーマット

通常のフォーマット（論理フォーマット）は、Windows上で実行できます。

フォーマット方法については [スタート] ボタン () → [ヘルプとサポート] をクリックして、『Windows ヘルプとサポート』を参照してください。

2 物理フォーマット

物理フォーマットを行うには、非常に時間がかかります。

「TOSHIBA Disc Creator」をインストールしないと本機能は使用できません。

あらかじめインストールしてください。

参照 ▶ 「TOSHIBA Disc Creator」について「本節 **1** - **1** - 書き込みできるアプリケーション」

1 物理フォーマットするDVD-RAMをセットする

2 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [マルチメディア] → [DVD-RAM ユーティリティ] をクリックする
[東芝DVD-RAM ユーティリティ] 画面が表示されます。

3 [開始] ボタンをクリックする

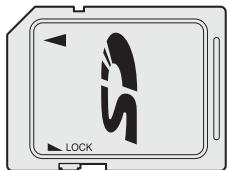
以降、画面に表示されるメッセージに従ってください。

物理フォーマットをしたあとは、論理フォーマットが必要です。

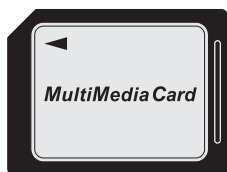
本製品では次のメディアカードをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

1 使えるメディアカードについて

- SDメモリカード（以降、SDHCメモリカード、SDXCメモリカードを含みます。）*1*2

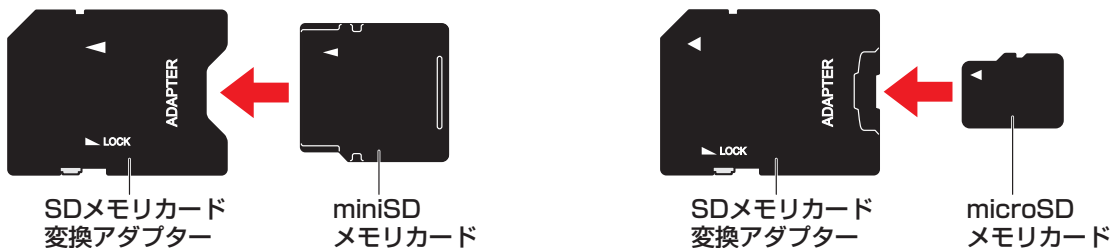


- マルチメディアカード*1*3



- miniSDメモリカード（以降、miniSDHCメモリカードを含みます。）*1*2
- microSDメモリカード（以降、microSDHCメモリカード、microSDXCメモリカードを含みます。）*1*2

市販のSDメモリカード変換アダプターを装着すると、本製品のブリッジメディアスロットでも使用できます。必ず変換アダプターを装着した状態でご使用ください。



参照 変換アダプターの装着や使用方法『メディアカードに付属している説明書』

本書では、特に区別して説明する場合を除き、SDメモリカード、miniSDメモリカード、microSDメモリカードを「SDメモリカード」と呼びます。

- * イラストは、実際のものとは異なる場合があります。
- * 1 すべてのメディアの動作を保証するものではありません。
- * 2 SDIOカードには対応していません。
- * 3 SecureMMCには対応していません。

コンパクトフラッシュメモ리카ードなどは使用できません。使用する場合はUSB経由で周辺機器（デジタルカメラなど）を接続するか、専用のカードリーダーをご使用ください。

新品のメディアカードは、メディアカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。フォーマットとは、メディアカードを使えるようにすることです。フォーマットされていないものを購入した場合や再フォーマットをする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

1章

パソコンの機能を活用する

2 メディアカードのセット／取り出し

お願い メディアカードの使用にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 2 - 5」 メディアカードを使うにあたって」

1 セットする

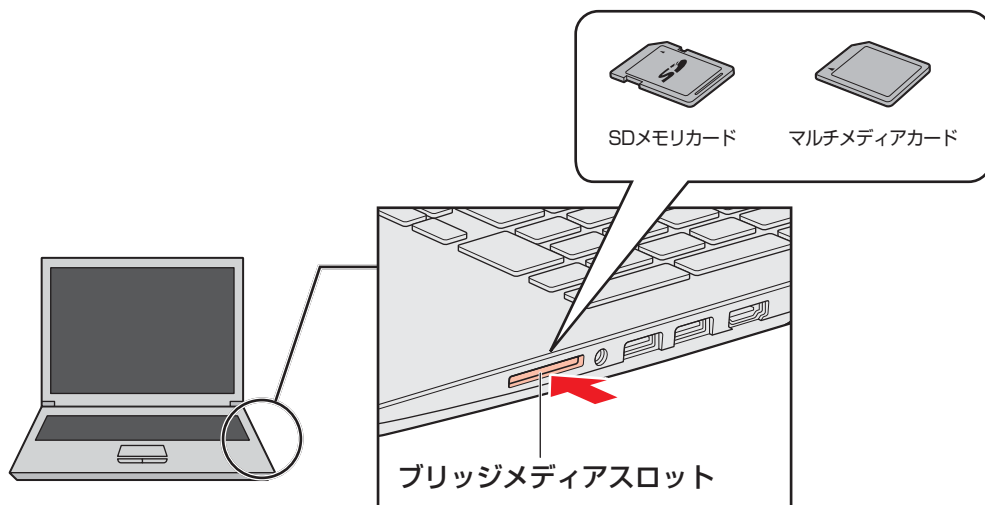
⚠ 注意

- メディアカードを強く押さない
メディアカードやブリッジメディアスロットが故障するおそれがあります。
- メディアカードを挿したまま、メディアカードに衝撃を与えない
メディアカードが故障して、データの読み取り／書き込みができなくなるおそれがあります。
- メディアカードを挿したまま、持ち運びしない
メディアカードをぶつけると、メディアカードやブリッジメディアスロットが故障するおそれがあります。
- メディアカードを使用しないときは、メディアカードを取り出す
メディアカードに衝撃が加わると、メディアカードが故障するおそれがあります。

メディアカードをブリッジメディアスロットの奥まで挿入すると、カードが本体から少し出ている状態になります。

1 メディアカードの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

カードが止まるまで挿入します。



お願い

- miniSDメモ리카ード、microSDメモ리카ードは、市販のSDメモ리카ード変換アダプターが必要です。
アダプターを使用しないで直接挿入すると、取り出せなくなります。

2 セットしたメディアカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

著作権保護されたファイルについては見ることはできない場合があります。

1 章

パソコンの機能を活用する

1 [スタート] ボタン () → [コンピューター] をクリックする

[コンピューター] 画面が表示されます。

2 メディアカードのアイコンをダブルクリックする

以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

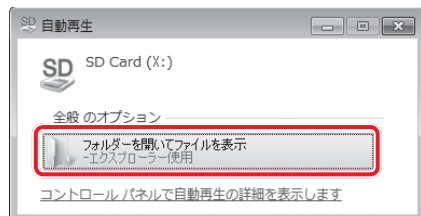
SDメモ리카ード : リムーバブルディスク、セキュリティで保護された記憶域デバイス、SD Card、SD
 マルチメディアカード : リムーバブルディスク、MMC 記憶域デバイス、MMC Card、MMC

(表示例)

セットしたメディアカードの内容が表示されます。

メモ

- メディアカードによっては、ブリッジメディアスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、メディアカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。選択画面が表示されたときは、[フォルダーを開いてファイルを表示] を選択してください。





(表示例)

3 取り出す

メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。


ファイルやウィンドウを閉じてから、操作を行ってください。

1 メディアカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す] アイコン ( または ) をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をクリックしてください。



- ② 表示されたメニューから取り出すメディアカードの項目をクリックする
- ③ 「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、  をクリックする

2 メディアカードを抜く

そのまま手で取り出します。

7

USB対応機器を使う

1章

パソコンの機能を活用する

ユーザー

USB 対応機器は、電源を入れたまま取り付け／取りはずしができます。

また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンター
- USB 対応スキャナー
- USB フラッシュメモリ など

本製品のUSBコネクタには、USB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。

また、コネクタ内部が青色のUSBコネクタは、USB3.0対応機器も取り付けることができます。

使用しているUSB対応機器がUSB3.0規格に対応しているかどうかは、あらかじめ確認してください。

参照 ▶ 『USB対応機器に付属している説明書』

USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。

お願い USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 1 - 1 - パソコン本体への機器の取り付け／取りはずしについて」

参照 ▶ 「付録 1 - 1 - USB対応機器の操作にあたって」

1 USB 対応機器の取り付け／取りはずし

1 取り付け

1 USB ケーブルのプラグを USB 対応機器に差し込む

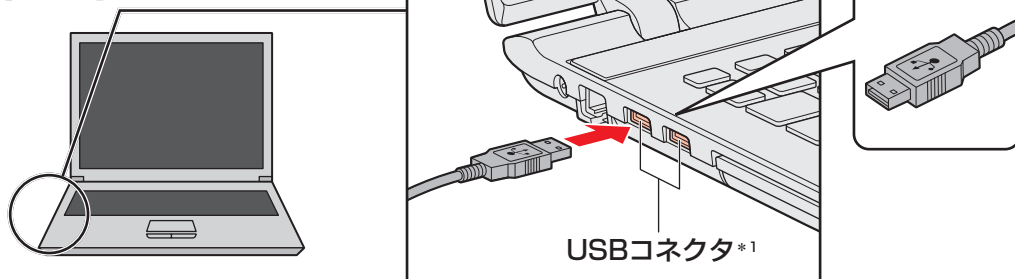
この手順が必要ない機器もあります。

参照▶ USB 対応機器の詳細『USB 対応機器に付属している説明書』

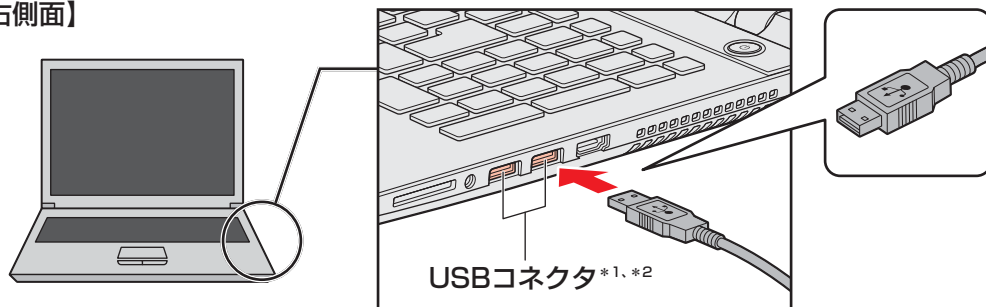
2 USB ケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

【左側面】



【右側面】



* 1 モデルによって搭載されている USB コネクタの数は異なります。



* 2 コネクタ内部が青色のコネクタは、USB3.0 規格に対応しています。


2 取りはずし

1 章


パソコンの機能を活用する

1 USB対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す] アイコン () または ) をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、手順 **2** に進んでください。



- ② 表示されたメニューから取りはずすUSB対応機器の項目をクリックする
- ③ 「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、  をクリックする

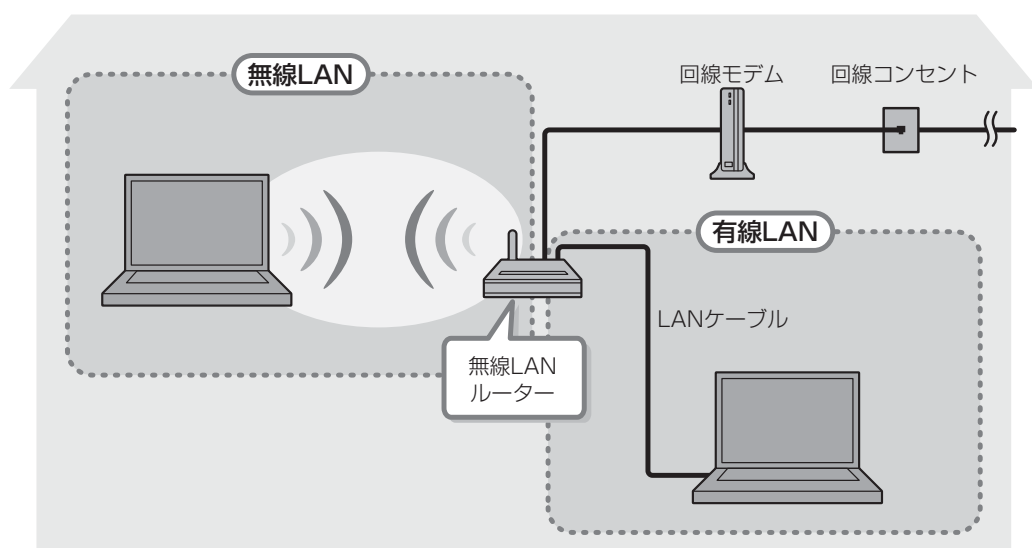
2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

会社や家庭でそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合、1つのプリンターを共有したいときや、インターネット接続を使いたいときは、LAN（Local Area Network）を使うと便利です。

1 LAN接続はこんなに便利

会社や家庭でそれぞれが自分専用のパソコンを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンを持っている場合など、複数のパソコンがあるときは、LANを使うと便利です。

LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。



(接続例)


■有線LAN

有線LANの機能やLANケーブルの接続については、「本節 **2** 有線LANで接続する」を参照してください。

■無線LAN

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピューターをLANシステムに接続できます。

無線LANルーターや無線LANアクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンターなどの機器の設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定方法の詳細は、[スタート] ボタン () → [ヘルプとサポート] をクリックして、『Windows ヘルプとサポート』を参照してください。

ネットワークに接続している機器の設定は、各機器に付属している説明書を確認してください。また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 有線LANで接続する

本製品には、ブロードバンド接続などに使用する^{ラン}LAN機能が搭載されています。

本製品のLANコネクタに光回線終端装置、ADSLモデムやブロードバンドルーターなどをLANケーブルで接続することができます。

また、本製品のLAN機能は、Gigabit Ethernet (1000BASE-T)、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) ^{イーサネット}に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。Gigabit Ethernet、Fast Ethernet、Ethernetは、ご使用のネットワーク環境（接続機器、ケーブル、ノイズなど）により、自動で切り替わります。

1 LANケーブルを接続する

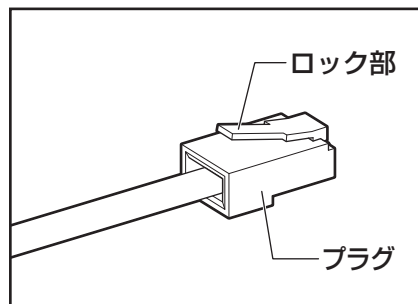
お願い LANケーブルの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 5 有線LANについて」

LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

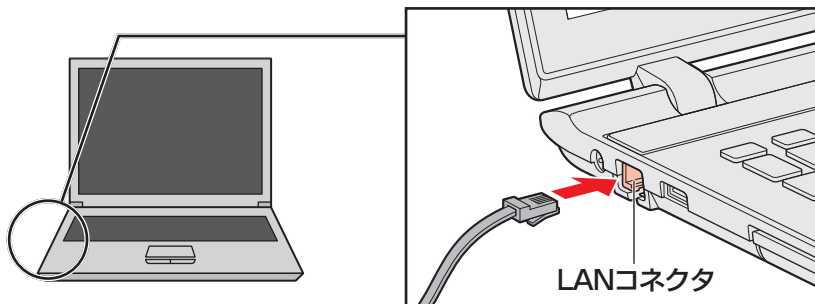
LANケーブルは本製品には付属していません。市販のLANケーブルを購入してください。



1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む

ロック部を下にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。



3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器により、以降の設定方法は異なります。

参照▶ 光回線終端装置、ADSLモデムの設定について
『プロバイダーなどから送られてくる資料』

参照▶ ブロードバンドルーターの設定について
『ブロードバンドルーターに付属している説明書』

3 無線LANで接続する

* 無線LAN機能搭載モデルのみ

警告

- 心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す
電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る
パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定したうえで、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
 - ・ 無線通信機能は、**[FN]** + **[F12]** キーを押してOFFにすることができます。**[FN]** + **[F12]** キーを押して無線通信機能をOFFに設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯していることを確認してください。
 - ・ スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
 - ・ 電源を切った状態、または高速スタートモードで待機中（高速スタートモードで電源を切ったとき）でも、パソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
 - ・ ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

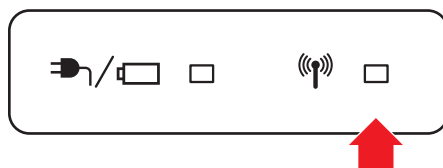
お願い

- あらかじめ、次の説明を確認してください。
 - 参照 ▶ 「付録 1 - 6 無線LANについて」
- 『困ったときは』に、セキュリティに関する注意事項や使用上の注意事項を説明しています。無線LANを使用する場合は記述をよく読んで、セキュリティの設定を行ってください。
 - 参照 ▶ 『困ったときは 付録 3 デイリーケアとアフターケア』

1 **FN + F12** キーを押す

FN キーを押したまま **F12** キーを押すたびに、大きく表示されるアイコンが切り替わります。無線LANのアイコン（Wi-Fiのアイコン）が大きく表示された状態で **FN** キーをはなすと、無線LAN機能のON/OFFが切り替わります。

ONにすると、ワイヤレスコミュニケーション (無線LAN) LEDが点灯します。



以降の無線LANの設定は、Windows標準機能を使って設定します。

1 **セキュリティの設定**

無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。

参照 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

『困ったときは 付録 3 デイリーケアとアフターケア』

これらの問題に対応するためには、無線LANアクセスポイントとパソコンの双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。

本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。

次のセキュリティ設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。

1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする

2 [ インターネットへの接続] → [ワイヤレス] をクリックする

現在のワイヤレスネットワークへの接続状態が表示されます。

3 画面右下の [ワイヤレスネットワーク接続] 画面で、接続したいアクセスポイント名をクリックする

4 [自動的に接続する] をチェックし、[接続] ボタンをクリックする

5 [ネットワークに接続] 画面で、必要なネットワークセキュリティ情報を入力し、[OK] ボタンをクリックする

選択する項目、データ暗号化の方式、セキュリティ キーなどの詳細は、『無線LANアクセスポイントに付属している説明書』を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線LANアクセスポイントに接続できない場合があります。

*** Bluetooth機能搭載モデルのみ**

Bluetooth機能搭載モデルの場合、Bluetooth対応機器と接続して使用することができます。Bluetoothワイヤレステクノロジーは、パソコンや周辺機器、携帯電話などの機器同士を相互に登録することで無線でデータをやりとりできる、世界標準の通信方式です。

お願い Bluetooth機能の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 **1** - **7** Bluetoothについて」

 **メモ**

- Bluetoothのバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth対応機器があります。本製品に搭載されているBluetooth機能のバージョンについては、次の説明を確認してください。

参照▶ 『困ったときは 付録 **5** - **3** Bluetoothの仕様』

- 2.4GHz帯の無線LANまたはWiMAXが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。


1 Bluetooth対応機器と接続する


警告

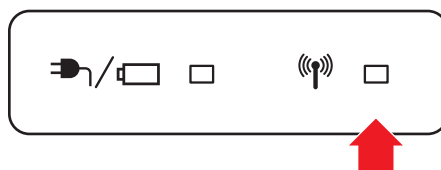
- 心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す
電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る
パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定したうえで、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
 - ・ 無線通信機能は、**FN** + **F12** キーを押してOFFにすることができます。**FN** + **F12** キーを押して無線通信機能をOFFに設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯していることを確認してください。
 - ・ スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
 - ・ 電源を切った状態、または高速スタートモードで待機中（高速スタートモードで電源を切ったとき）でも、パソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
 - ・ ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

1

FN + **F12** キーを押す

FN キーを押したまま **F12** キーを押すたびに、大きく表示されるアイコンが切り替わります。Bluetoothのアイコン（) が大きく表示された状態で **FN** キーをはなすと、Bluetooth機能のON/OFFが切り替わります。

ONにすると、ワイヤレスコミュニケーション  LEDが点灯します。



2 画面に従って操作する

初めて起動したときは、Bluetooth用ドライバーのインストールが始まります。インストールが終了するまでお待ちください。

「Bluetooth Manager」が起動し、周辺のBluetooth対応機器を検索する〔自動登録〕画面が表示されます。

無線LAN（Wireless LAN）と同時に使用する際の〔注意〕画面が表示された場合は、内容を確認のうえ、〔OK〕ボタンをクリックして画面を閉じてください。

■ すぐにBluetooth対応機器と接続する場合



① Bluetooth対応機器の電源を入れ、Bluetooth機能をONにする


参照▶ Bluetooth対応機器の操作方法の詳細『Bluetooth対応機器に付属している説明書』


② 画面に従って、Bluetooth対応機器との接続設定を行う

■ あとでBluetooth対応機器を設定する場合

① 〔自動登録〕画面の〔キャンセル〕ボタンをクリックする


通知領域に〔Bluetooth Manager〕アイコン（）が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回Windowsを起動したときには自動的にアイコンが表示されます。〔Bluetooth Manager〕アイコン（）はサービスの状態によって表示が異なります。詳しくは、『Bluetoothユーティリティユーザーズガイド』を確認してください。

Bluetooth機能が有効になっていない場合には、〔Bluetooth Manager〕アイコン（）を右クリックして表示されたメニューから、〔Bluetoothオン〕を選択してください。

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

設定方法や通信する方法については、『Bluetoothユーティリティユーザーズガイド』をご覧ください。

Bluetooth ユーティリティユーザーズガイドの起動方法

1 [スタート] ボタン（） → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [Bluetooth] → [Bluetooth ユーザーズガイド] をクリックする

2章

システム環境を設定する

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1	パスワードセキュリティ	50
2	起動ドライブの変更	61
3	東芝HWセットアップ	62
4	BIOSセットアップを使う	63

1 パスワードセキュリティ

パスワードとは、パソコンやWindowsの起動時などに入力する、認証用の文字列のことです。パスワードが設定されている場合、あらかじめ決めた文字列を正しく入力しないと起動できません。

このため、自分にしかわからないパスワードを設定しておけば、ほかの人がパソコンやWindowsを起動できなくなるため、データを見られたり、誤って消されてしまう心配が少なくなります。

一度設定したパスワードは、後から変更したり、削除したりすることができます。

パスワードにはいろいろな種類があります。

● Windowsパスワード

Windowsを起動するときやスクリーンセーバーから復帰するとき、パスワードを入力しないと起動しません。

使用者として登録しているユーザーが、それぞれ別々に設定できます。

● ユーザーパスワード (BIOSパスワード)

電源を入れるときや休止状態から復帰するとき、パスワードを入力しないと起動しません。

● スーパーバイザーパスワード (BIOSパスワード)

BIOSセットアップの設定を変更できないようにするなど、いくつかのパソコン本体の設定について制限をかけられます。スーパーバイザーが使用します。

● HDDパスワード

本体のハードディスクを保護します。電源を入れるときにHDDパスワードを入力しないと起動しません。万が一パスワードを忘れた場合、永久にハードディスクを使用できなくなる、非常に強固なセキュリティです。



- ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードでは、違う文字列を使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。
HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクは永久に使用できなくなりますので、有料にてハードディスクを交換します。
それ以外のパスワードの場合は、有料にてパスワードを解除します。その際、パスワードの種類によっては、お客様のデータが失われる場合があります。
またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要です。

パスワードに使用できる文字

ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード、HDDパスワードに使用できる文字は次のとおりです。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット (半角)	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
	数字 (半角)	0123456789
	記号の一部 (半角)	;,.,. (スペース) など
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全角文字 (2バイト文字) ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ (全角/半角)、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・ 記号の一部 (半角) 【例】 ! (バーチカルライン) _ (アンダーバー) ¥ (エン) など ・ ほかのキー (SHIFT キーや CAPSLOCK 英数 キーなど) と同時に使用しないと入力できない文字 	


パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう一度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザーパスワード

「東芝HWセットアップ」でユーザーパスワードの設定や設定の変更ができます。

ユーザーパスワードは、BIOSセットアップの [Security] メニューでも設定できますが、「東芝HWセットアップ」で設定することをおすすめします。

1 ユーザーパスワードの登録

1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [HWセットアップ] をクリックする

[東芝HWセットアップ] が起動します。

2 [パスワード] タブで [ユーザーパスワード] の [登録] をチェックする
パスワードを入力する画面が表示されます。

3 [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードは10文字以内で入力できます。

参照 ▶ パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードとして使用できる文字」

パスワードは「***** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

4 [パスワードの確認] に手順 **3** で入力したパスワードをもう一度入力し、[OK] ボタンをクリックする

5 表示されたメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする




メモ

- パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。

2 ユーザーパスワードの削除

ユーザーパスワードを削除するには、次の手順を実行してください。

1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [HWセットアップ] をクリックする

2 [パスワード] タブで [ユーザーパスワード] の [未登録] をチェックする
パスワードを入力する画面が表示されます。

3 [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。

パスワードの入力エラーの場合は、もう一度手順 **2** から操作を行ってください。

入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう一度手順 **1** から削除の操作を行ってください。

4 表示されたメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

3 ユーザーパスワードの変更

ユーザーパスワードを変更したい場合は、ユーザーパスワードを削除してから、新たに登録してください。

4 ユーザーパスワードの入力

お願い

- パスワード入力画面で自動的に電源が切れると、LAN、タイマーからの許可によるWake-upができませんので、電源を入れ直してください。

電源を入れたとき／休止状態から復帰するとき

ユーザーパスワードを登録している場合、電源を入れるとパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

この場合は、次の方法でパソコン本体を起動します。

1 登録したとおりにパスワードを入力し、**ENTER** キーを押す

パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
パスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。
その場合は、電源を入れ直してください。

5 パスワードを忘れてしまった場合

パスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要です。

2 スーパーバイザーパスワード


「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」で、Windows 上からスーパーバイザーパスワードの設定や設定の変更ができます。

スーパーバイザーパスワードは、BIOSセットアップの [Security] メニューでも設定できますが、「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」で設定することをおすすめします。

メモ

- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。

1 「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」の起動方法

- 1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 「C:¥Program Files¥TOSHIBA¥Utilities¥SVPWUTIL.exe」
または
「C:¥Program Files (x86)¥Toshiba¥Utilities¥SVPWUTIL.exe」
と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする

2 スーパーバイザーパスワードの登録

- 1 [スーパーバイザーパスワード] の [登録] をクリックする
パスワードを入力する画面が表示されます。
- 2 [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードは10文字以内で入力できます。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。
パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。
- 3 [パスワードの確認] にもう一度パスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

- 4 表示されたメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
[ユーザーパスワードモード] を設定する画面が表示されます。
- 5 必要に応じて項目を選択し、[OK] ボタンをクリックする
- 6 「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」のメイン画面で [OK] ボタンをクリックする
- 7 表示されたメッセージを確認し、[はい] をクリックする
スーパーバイザーパスワードが登録されます。

3 スーパーバイザーパスワードの削除

- 1 [スーパーバイザーパスワード] の [未登録] をクリックする
パスワードを入力する画面が表示されます。
- 2 [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
- 3 「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」のメイン画面で [OK] ボタンをクリックする
- 4 表示されたメッセージを確認し、[はい] をクリックする
スーパーバイザーパスワードが削除されます。

3 HDDパスワード

HDDパスワードは、ハードディスクを保護するセキュリティ機能です。
HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOS セットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめます。

お願い

- 万が一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスクは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合、有料での交換となります。
ハードディスクが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社はいっさい責任を負いません。
HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいたうえでご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、HDD ユーザーパスワードとHDD マスターパスワードの2つを設定することが可能です。

■ HDD ユーザーパスワード

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。
HDD マスターパスワードを削除すると、同時にHDD ユーザーパスワードも削除されます。

■ HDD マスターパスワード

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
HDD マスターパスワードはHDD ユーザーパスワードの代わりに使えます。HDD ユーザーパスワードを忘れた場合でも、HDD マスターパスワードを入力してハードディスクにアクセスできます。
なお、HDD マスターパスワードのみを登録することはできません。
組織などでHDD マスターパスワードを用いた運用を検討した場合、各パソコンのユーザーに対してパソコン本体を配付する前に、あらかじめ管理者がBIOS セットアップでHDD マスターパスワードと仮のHDD ユーザーパスワードを設定しておく必要があります。

3 HDDパスワードの登録

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照▶ 電源の切りかた「基本編」

2 電源スイッチを押し、すぐに **F2** キーを数回押して、BIOS セットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

パスワードを入力して **ENTER** キーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「HDD/SSD Password」の「User」に合わせ、**ENTER** キーを押す

HDD マスターパスワードの場合は、「Master」にカーソルを合わせて **ENTER** キーを押してください。

パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは10文字以内で入力します。

参照▶ パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに **[*]** (アスタリスク) で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

5 **ENTER** キーを押す

確認入力の画面が表示されます。

6 もう一度パスワードを入力する

7 **ENTER** キーを押す

パスワードが登録されます。

2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**ENTER** キーを押し、手順 **3** からやり直してください。

HDD マスターパスワードを登録する場合は、BIOS セットアップの「HDD/SSD Password」の「Mode」で「Master + User」を選択します。表示された「Master」にHDD マスターパスワードを設定し、続けてHDD ユーザーパスワードの設定を行います。

参照▶ BIOS セットアップの終了方法「本章 **4** - **1** 起動と終了/BIOS セットアップの操作」

4 HDDパスワードの削除

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照 ▶ 電源の切りかた「基本編」

2 電源スイッチを押し、すぐに **F2** キーを数回押して、BIOS セットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

パスワードを入力して **ENTER** キーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「HDD/SSD Password」の「User」に合わせ、 **ENTER** キーを押す

HDD マスターパスワードの場合は、「Master」にカーソルを合わせて **ENTER** キーを押してください。

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに **[*]** (アスタリスク) が表示されます。

5 **ENTER** キーを押す

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。

入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**ENTER** キーを押し、手順 **3** からやり直してください。

6 何も入力しないで、 **ENTER** キーを押す

確認入力の画面が表示されます。

7 何も入力しないで、 **ENTER** キーを押す

パスワードが削除されます。

HDD マスターパスワードを削除する場合は、HDD マスターパスワードの削除を行うと、同時にHDD ユーザーパスワードも削除されます。

HDD ユーザーパスワードのみを削除することはできません。

参照 ▶ BIOS セットアップの終了方法「本章 **4** - **1** 起動と終了/BIOS セットアップの操作」

5 HDDパスワードの変更

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照 ▶ 電源の切りかた「基本編」

2 電源スイッチを押し、すぐに[F2]キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

パスワードを入力して[ENTER]キーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「HDD/SSD Password」の「User」に合わせ、[ENTER]キーを押す

HDDマスターパスワードの場合は、「Master」にカーソルを合わせて[ENTER]キーを押してください。

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに[*]（アスタリスク）が表示されます。

5 [ENTER]キーを押す

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。

入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。[ENTER]キーを押し、手順**3**からやり直してください。

6 新しいパスワードを入力する

パスワードは1文字ごとに[*]（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

7 [ENTER]キーを押す

確認入力の画面が表示されます。

8 もう一度新しいパスワードを入力する

9 [ENTER]キーを押す

パスワードが変更されます。

2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。[ENTER]キーを押し、手順**3**からやり直してください。

参照 ▶ BIOSセットアップの終了方法「本章**4** - **1** 起動と終了/BIOSセットアップの操作」

6 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れるとHDDパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

この場合は、次の方法でパソコン本体を起動します。

お願い

- パスワード入力画面で自動的に電源が切れると、LAN、タイマーからの許可によるWake-upができませんので、電源を入れ直してください。

1 登録したとおりにHDDパスワードを入力し、**ENTER**キーを押す

HDDパスワードの入力ミスが3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。パスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。その場合は、電源を入れ直してください。

メモ

- ユーザーパスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、ユーザーパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、ユーザーパスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、ユーザーパスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。

ご購入時の設定では、本体のハードディスクからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

1 一時的に変更する

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照▶ 電源の切りかた『基本編』

2 電源スイッチを押し、すぐに **F12** キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **ENTER** キーを押してください。
[Boot Menu] 画面が表示されます。

3 起動したいドライブを **↑** または **↓** キーで選択し、 **ENTER** キーを押す

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

お願い

- [HDD Recovery] は選択しないでください。HDD Recovery (HDDリカバリー) を実行すると、ハードディスク内に保存されているデータはすべて消去されます。
間違えて選択してしまった場合、メッセージが表示されますので [No] ([NO]) を選択してください。電源が切れるので、手順 **2** からやり直してください。

参照▶ HDDリカバリー (ハードディスクからパソコンを初期状態に戻す) について『困ったときは』

2 あらかじめ設定しておく

「東芝HWセットアップ」の [OSの起動] タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照▶ 設定の変更「本章 **3** 東芝HWセットアップ」

3


東芝HWセットアップ

「東芝HWセットアップ」を使い、Windows上でハードウェアの設定を変更できます。複数のユーザーで使用する場合も、設定内容は全ユーザーで共通になります。

2章

システム環境を設定する

設定方法

1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [HWセットアップ] をクリックする

「東芝HWセットアップ」が起動します。

2 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

「東芝HWセットアップ」で再起動が必要な項目の設定を変更すると、パソコンの再起動を行うようメッセージが表示されます。

この場合、すぐに再起動を行って設定を有効にしてください。

メモ

- 選択できない状態になっている (グレーアウトしている) 項目は、設定内容の確認のみ行うことができます。

ヘルプの起動方法

1 [東芝HWセットアップ] 画面上で、知りたい項目にポインターを合わせる

項目に対するヘルプが表示されます。

バイオス

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定



メモ BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows上の「東芝HWセットアップ」、「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」、「電源オプション」、「デバイス マネージャー」などで行ってください。デバイス マネージャーについては、『Windowsヘルプとサポート』を確認してください。

参照 ▶ 「本章 **3** 東芝HWセットアップ」

参照 ▶ 「本章 **1** - **1** ユーザーパスワード」

参照 ▶ 「本章 **1** - **2** スーパーバイザーパスワード」

参照 ▶ 「電源オプション」について『基本編』

- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、時計用電池が消耗した場合は標準設定値に戻ることがあります。

1 起動と終了／BIOS セットアップの操作

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

2 章

システム環境を設定する

1 起動

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照 ▶ 電源の切りかた「基本編」

2 電源スイッチを押し、すぐに **F2** キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **ENTER** キーを押してください。

参照 ▶ パスワードについて「本章 **1** パスワードセキュリティ」

BIOS セットアップが起動します。

起動できなかった場合は、手順 **1** の終了操作を行ってパソコン本体の電源を切り、手順 **2** をやり直してください。

2 終了

1 **↑** **↓** **←** **→** キーを押して、[Exit] メニューを表示する

2 終了方法を選択する

3 画面の指示に従って BIOS セットアップを終了する

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合には行います。この場合、変更した内容は、一部の設定を除き無効になります。

設定値は変更前の状態のままです。

各種パスワード、[Main] メニューの [System Time] と [System Date] の各設定については、変更前の状態に戻りません。

1 **ESC** キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 [Yes] ([YES]) を選択し、**ENTER** キーを押す

BIOS セットアップが終了します。

3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

メニューまたは変更したい項目を選択する	↑ または ↓ 画面左側のメニュー名が反転している部分が現在表示しているメニュー画面です。 また画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
メニュー欄と項目欄とを切り替える	← または → メニュー欄と項目欄とでカーソル（反転部分）を移動するときに使用します。
サブメニューや設定値の一覧を表示する、 または設定値を切り替える	ENTER
項目を切り替える	TAB *一部の項目のみ
設定内容を変更する	+ または - *一部の項目のみ
設定内容を標準値にする	F9 メッセージが表示されます。[Yes] ([YES]) を選択し、ENTER キーを押してください。 各種パスワードなど一部の設定については、標準値に戻りません。
設定を保存し、BIOS セットアップを終了する	F10 メッセージが表示されます。[Yes] ([YES]) を選択し、ENTER キーを押してください。 保存しない場合は [No] ([NO]) を選択し、ENTER キーを押してください。
設定を保存しないで、BIOS セットアップを終了する	ESC メッセージが表示されます。[Yes] ([YES]) を選択し、ENTER キーを押してください。 サブメニュー表示中は1つ前の画面に戻ります。 各種パスワード、[Main] メニューの [System Time] と [System Date] の各設定については、変更前の状態に戻りません。
BIOS セットアップのヘルプを表示する	F1



付録

本製品の機能を使用するにあたって知っておいていただきたいことなどについて、説明しています。

1	ご使用にあたってのお願い	68
2	記録メディアについて.....	76
3	各インターフェースの仕様	84
4	OSの切り替えについて.....	88
5	BIOSについて	92

1

ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能をご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。搭載されている機能やアプリケーションは、ご購入のモデルにより異なります。

1 周辺機器について

パソコン本体への機器の取り付け／取りはずしについて

- 本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。
周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルの規格や、コネクタ／端子の形状などのことです。購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。
周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。
- 取り付け／取りはずしの方法は機器によって違います。1章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
 - ・ ホットインサージョンに対応していない機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサージョンとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
 - ・ 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
 - ・ ほこりが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
 - ・ 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
 - ・ 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
 - ・ 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
 - ・ パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
 - ・ パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- すべてのテレビまたは外部ディスプレイへの表示を保証するものではありません。テレビまたは外部ディスプレイによっては正しく表示されない場合があります。
- 必ず、映像を再生するアプリケーションを起動する前に、表示装置の切り替えを行ってください。アプリケーションによっては、起動中に表示装置を切り替えられない場合があります。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えしないでください。
 - ・ データの読み出しや書き込みをしている間
 - ・ 通信を行っている間
- クローン表示にしているときに映像を再生させると、画像がコマ落ちをすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、クローン表示にしないで1つの表示装置に表示するか、拡張表示に設定してください。
- 拡張表示でテレビまたは外部ディスプレイをメインディスプレイに設定した場合、スリープまたは休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイをはずさないでください。スリープまたは休止状態から復帰したときにログオン画面が表示されずに、操作ができなくなることがあります。
- HDMI出力端子にテレビまたは外部ディスプレイを接続しているときに、ほかのコネクタにテレビまたは外部ディスプレイや外部サウンド機器が接続されている場合、画面表示を切り替えたりHDMIケーブルを抜き差ししたりすると、システムによって自動的に画面表示または音声の出力が切り替わることがあります。
- テレビまたは外部ディスプレイに表示したときに、画面の周りに黒い帯が表示され、画面がテレビまたは外部ディスプレイの中央に小さく表示されることがあります。その場合は『テレビに付属している説明書』または『外部ディスプレイに付属している説明書』を参照して、テレビまたは外部ディスプレイがサポートしている画面モードに設定してください。適切なサイズと適切なアスペクト比で表示されます。

ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドセットやヘッドホンを装着しないでください。雑音が発生する場合があります。
 - ・ パソコン本体の電源を入れる／切るとき
 - ・ ヘッドセットやヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

USB 対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム（OS）が対応しており、機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべての USB 対応機器の動作を保証するものではありません。
- USB 対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

□ USB 接続の外部ディスプレイを使用するにあたって

- USB 接続の外部ディスプレイを接続した場合、著作権保護機能に対応していないドライバーがインストールされることにより、一部の映像を再生するアプリケーションが動作しなくなることがあります。
これらのアプリケーションを使用される場合は、USB 接続の外部ディスプレイの接続やドライバーのインストールを行わないようにお願いします。

□ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB 対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USB フラッシュメモリや USB 接続のハードディスクドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

2 Webカメラについて

Webカメラを使用するにあたって

- Webカメラを太陽に直接向けないでください。
- Webカメラのレンズ部分に触れたり、強く押ししたりしないでください。画質が低下する原因となります。
レンズ部分が汚れた場合は、眼鏡ふきなどの柔らかい布でふいてください。

3 ハードディスクについて

操作にあたって

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- ハードディスクへのアクセス中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にCD／DVDやUSBフラッシュメモリなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、CD／DVD、USBフラッシュメモリなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクドライブの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

4 CDやDVDについて

CD/DVDの操作にあたって

- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺（ディスクトレイの裏側も含む）に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- CD/DVDへのアクセス中は、イジェクトボタンを押したり、CD/DVDを取り出す操作をしないでください。CD/DVDが傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD/DVDのデータやドライブが壊れるおそれがあります。

参照▶ イジェクトホールについて

「1章 5 - 4 - CD/DVDが出てこない場合」

- ディスクトレイを開けたときに、CD/DVDが回転している場合には、停止するまでCD/DVDに手を触れないでください。けがのおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブにCD/DVDが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- CD/DVDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD/DVDを正しくディスクトレイにセットしないとCD/DVDを傷つけることがあります。
- 本製品では、8cm、12cmのCD/DVDのみ使用できます。
これら以外のCD/DVDは使用できません。

5 有線LANについて

LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。
- LANインターフェースを使用するとき、Gigabit Ethernet（1000BASE-T）は、エンハンストカテゴリ5（CAT5e）以上のケーブルを使用してください。
Fast Ethernet（100BASE-TX）は、カテゴリ5（CAT5）以上のケーブルを使用してください。
Ethernet（10BASE-T）は、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

6 無線LANについて

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、本や厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
また、無線LANアクセスポイントとパソコンとの間を金属板などで遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属製のケースなどで覆わないようにしてください。
- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。
この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピューターすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、次の説明を確認してください。

参照 『困ったときは 付録 5 無線LAN/Bluetoothについて』



- 本製品の無線LANを使用できる国／地域については、「dynabook.com」を確認してください。

7 Bluetoothについて

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を保証するものではありません。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる国／地域については、「dynabook.com」を確認してください。

8 DVDの再生にあたって

■「TOSHIBA VIDEO PLAYER」について

- 「TOSHIBA VIDEO PLAYER」で映像を再生する前に、ほかのアプリケーションを終了させてください。また、再生中にはほかのアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。
- 「TOSHIBA VIDEO PLAYER」の起動中は、スリープ、休止状態を実行しないでください。
- 「TOSHIBA VIDEO PLAYER」の起動中は、コンピューターのロック状態に移行する操作（ +  キーを押す）をしないでください。
- 外部ディスプレイまたはテレビに表示するときは、アプリケーションを起動する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。

参照▶「1章 1 - 2」パソコンの画面をテレビや外部ディスプレイに映す」

- 「TOSHIBA VIDEO PLAYER」で再生している映像は、本体ディスプレイまたは本製品に接続したテレビや外部ディスプレイのみに表示できます。
- テレビや外部ディスプレイ側の解像度やリフレッシュレートが高い場合、再生画像が正常に表示されないことがあります。その際はいったん再生を終了し、テレビや外部ディスプレイ側の解像度、リフレッシュレートや色数を下げてください。
- 「TOSHIBA VIDEO PLAYER」の起動中は、解像度の切り替えを行わないでください。
- テレビや外部ディスプレイで映像を再生するとき、画面の設定でリフレッシュレートが「1,920 × 1,080 24Hz」に設定されていると、動きの多い映像がなめらかに表示されない場合があります。その場合は、「1,920 × 1,080 60Hz」または「1,920 × 1,080 59Hz」に設定してください。

■DVDの再生について

「DVD」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-VideoフォーマットまたはDVD-VRフォーマットで記録されたディスクを示します。

- ^{リージョン}Regionコードは4回まで変更することができますが、通常は出荷時のままご利用ください。出荷時の状態では、Regionコードが「2」に設定されておりますので、Regionコードが「2」または「ALL」のDVD-Videoをご使用ください。
- 使用するDVDのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。
- 家庭用DVDレコーダーで録画した、ファイナライズされていないDVDはパソコンで再生できない場合があります。
- DVDの再生には、「TOSHIBA VIDEO PLAYER」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用してDVDを再生すると、表示が乱れたり、再生できないことがあります。このようなときは、「TOSHIBA VIDEO PLAYER」を起動し、DVDを再生してください。
- 「TOSHIBA VIDEO PLAYER」では、DVD-VideoとDVD-VRの再生ができます。AVCRECおよびHD Recフォーマットで書き込まれたDVD、Video CD、Audio CD、MP3の再生はサポートしていません。
- DVD再生時は、電源コードとACアダプターの接続をおすすめします。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができないことがあります。バッテリー駆動で再生するときは電源プランで「高パフォーマンス」を選択してください。

- 「TOSHIBA VIDEO PLAYER」でDVDの再生映像を外部ディスプレイやテレビでご覧になるには、RGB端子、またはHDCP対応のHDMI入力端子のあるディスプレイやテレビが必要です。その他の注意については、「TOSHIBA VIDEO PLAYER」のヘルプを参照してください。

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。
搭載されている機能やアプリケーションは、ご購入のモデルにより異なります。

1 CD/DVDに書き込む前に

CD/DVDに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへの振動や衝撃などの本体異常や、記録メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。


- 書き込みに失敗したCD/DVDの損害については、当社はいっさいその責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD/DVDに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- CD/DVDに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠した記録メディアを使用してください。また、推奨するメーカーの記録メディアを使用してください。

参照 ▶ 「本節 4 - 2 書き込み速度と使用推奨メーカー」

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず電源コードとACアダプターを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウンまたは再起動を実行しないでください。

参照 ▶ 「電源オプション」について『基本編』


- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・ スクリーンセーバー
 - ・ ウイルスチェックソフト
 - ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・ 音楽や映像の再生アプリケーション
 - ・ LANなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- SDメモ리카ード、USB接続などのハードディスクドライブなど、本体のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本体のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本体のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- CD-R/DVD-R/DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW/DVD-RAM/DVD-RW/DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、記録メディアの内容を十分に確認してから行ってください。

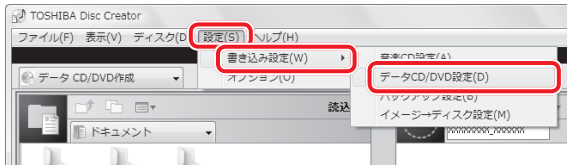
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去する記録メディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。
「エラーチェック」は、[スタート] ボタン () → [コンピューター] のハードディスクのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [プロパティ] をクリックして、プロパティ画面の [ツール] タブから行うことができます。
- ドライブの構造上、記録メディアの傷、汚れ、ほこり、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、記録メディアの状態をよくご確認ください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-RAMにデータを書き込むことはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-Video、DVD-VR、DVD-Audioを作成することはできません。
- 書き込み可能なDVDをバックアップする場合は、同じ種類の書き込み可能なDVDメディアでないとバックアップできない場合があります。詳しくは、「TOSHIBA Disc Creator」のヘルプを参照してください。
- 著作権保護されているDVD-Videoを「TOSHIBA Disc Creator」を使用してバックアップを作成しても、作成された記録メディアで映像を再生することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してCD-ROM、CD-R、CD-RWからDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rにバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-ROM、DVD-Video、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+RからCD-R、CD-RWにバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用して、ほかのソフトウェアや、家庭用DVDビデオレコーダーで作成したDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rのバックアップを作成できないことがあります。
- CD-RW／DVD-RW／DVD+RWメディアは書き換え可能な記録メディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RW／DVD-RW／DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。

書き込みを行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
- パソコン本体から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

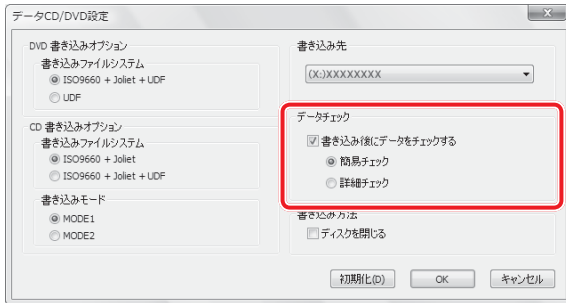
- 「TOSHIBA Disc Creator」では、データが正常に書き込まれたことを自動的にチェック（簡易チェック）するように設定されています。
設定内容は次の手順で確認できます。

- ① [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [マルチメディア] → [Disc Creator] をクリックする
「TOSHIBA Disc Creator」の [Startup Menu] 画面が表示されます。
- ② [データCD/DVD作成] をクリックする
- ③ メインウィンドウで [設定] をクリックし、[書き込み設定] → [データCD/DVD設定] をクリックする



[データCD/DVD設定] 画面が表示されます。

- ④ [データチェック] で [書き込み後にデータをチェックする] がチェックされているか確認する
[簡易チェック] と [詳細チェック] を選択することができます。



- ⑤ [OK] ボタンをクリックする書き込みを行うにあたって

フォーマットについて

- フォーマットを行うと、記録メディアに保存されている情報はすべて消去されます。一度使用した記録メディアをフォーマットする場合は注意してください。

2 使えるCDを確認しよう

CD-RW、CD-Rについて／CD-RW、CD-Rの使用推奨メーカー

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、記録メディアの使用推奨メーカーを確認してください。

参照 「本節 **4** - **2** 書き込み速度と使用推奨メーカー」

3 使えるDVDを確認しよう

■ DVD-RAMの種類

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。

カートリッジタイプの記録メディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブから記録メディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし* ¹	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）* ²	○

* 1 一部の家庭用DVDビデオレコーダーでは再生できない場合があります。

* 2 2.6GB、5.2GBのディスクは使用できません。

■ DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、記録メディアの使用推奨メーカーを確認してください。

参照 「本節 4 - 2 書き込み速度と使用推奨メーカー」

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、記録メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。
このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダーやパソコンでは再生できないこともあります。また、作成したDVD+R DLメディア、DVD-R DLメディアを再生するときは、それぞれの記録メディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

4 読み出し／書き込み速度と使用推奨メーカー

1 読み出し速度と対応フォーマット

ドライブ	DVDスーパーマルチドライブ (DVD±R 2層書き込み対応) ^{*1}
CD-ROM	最大24倍速
DVD-ROM	最大8倍速
読み出し対応フォーマット ^{*2}	DVD-R、DVD-RW、DVD-RAM ^{*3} 、DVD-R DL ^{*4} 、DVD+R、DVD+RW、DVD+R DL、DVD-ROM、DVD-Video ^{*5} 、CD-R、CD-RW、CD-ROM、音楽CD、マルチセッション (PhotoCD、CDエクストラ)

*1 12cm/8cmディスク対応、Serial ATA接続、バッファアンダーランエラー防止機能付き。

*2 対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

*3 2.6GB、5.2GBのDVD-RAMディスクは使用できません。また、カートリッジの取りはずしができないディスクは使用できません。

*4 DVD-R DL (DVD-R Dual Layer) は、Format4での読み出しをサポートしておりません。

*5 DVD-Videoの再生はRegionコード「2」、「ALL」のソフトをご使用ください。

- 使用するDVDのタイトルによっては、コマ落ちするケースがあります。
- 本ドライブは、各種ディスクの種類や特性にあった速度を選択して読み出しを行います。ディスクによっては最大速度での読み出しができない場合もあります。

2 書き込み速度と使用推奨メーカー

書き込み速度は、使用する記録メディアによって異なります。

また、CD/DVDに書き込む際には、次のメーカーの記録メディアを使用することを推奨します。これらのメーカー以外の記録メディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。記録メディアについては、次の説明を確認してください。

- DVD-Rは、DVD-R for General Ver2.0規格に準拠した記録メディアを使用してください。
- DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1またはVer1.2規格に準拠した記録メディアを使用してください。
- DVD-RAMは、DVD-RAM Ver2.0、Ver2.1、Ver2.2規格に準拠した記録メディアを使用してください。
- 市販のDVD-Rには業務用メディア (for Authoring) と一般用メディア (for General) があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。一般用メディア (for General) を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダーとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。

記録メディア		書き込み／書き換え速度	推奨メーカー
CD-Rメディア* ¹		最大24倍速	太陽誘電(株)、三菱化学メディア(株)
マルチスピードCD-RWメディア		最大4倍速	三菱化学メディア(株)
High Speed CD-RWメディア		最大10倍速	
Ultra Speed CD-RWメディア* ²		最大16倍速	
DVD-R	8倍速、16倍速	最大8倍速	太陽誘電(株) 三菱化学メディア(株)
DVD-R DL* ³	4倍速	最大4倍速	三菱化学メディア(株)
	8倍速	最大6倍速	
DVD+R	8倍速、16倍速	最大8倍速	
DVD+R DL	8倍速	最大6倍速	
DVD-RW	4倍速	最大4倍速	
	6倍速	最大6倍速	
DVD+RW	4倍速	最大4倍速	
	8倍速	最大8倍速	
DVD-RAM* ⁴	3倍速	最大3倍速	パナソニック(株)
	5倍速	最大5倍速	

- * 1 最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。
- * 2 Ultra Speed+ CD-RWメディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。
- * 3 DVD-R DL (DVD-R Dual Layer) は、Format4での書き込みをサポートしておりません。
- * 4 2.6GB、5.2GBのDVD-RAMディスクは使用できません。また、カートリッジの取りはずしができないディスクは使用できません。

- これらより速い書き込み倍速に対応した記録メディアを使用しても、ドライブの書き込み／書き換え速度以上の速度で書き込み／書き換えはできません。
- 本ドライブは、各種ディスクの種類や特性にあった速度を選択して書き込みを行います。ディスクによっては最大速度での書き込みができない場合もあります。

5 メディアカードを使うにあたって

1 メディアカードの操作にあたって

- メディアカードへのアクセス中は、電源を切ったり、メディアカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアカードが壊れるおそれがあります。
- メディアカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しくセットされていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、メディアカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアカードを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、必ずブリッジメディアスロットからメディアカードを取り出してください。ブリッジメディアスロットやメディアカードが破損するおそれがあります。

2 メディアカードのフォーマットについて

- 再フォーマットする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。
Windows上（[コンピューター] 画面）でメディアカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのメディアカードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したメディアカードを再フォーマットする場合は注意してください。

3 SDメモ리카ードを使う前に

- ブリッジメディアスロットにminiSDメモ리카ードをセットするときは、必ずminiSDメモ리카ードをSDメモ리카ードとして使用できる市販の変換アダプターを装着した状態で行ってください。
microSDメモ리카ードをセットするときは、必ずmicroSDメモ리카ードをSDメモ리카ードとして使用できる市販の変換アダプターを装着した状態で行ってください。miniSDメモ리카ードサイズのmicroSDメモ리카ード用の変換アダプターは使用できません。
- ブリッジメディアスロットからminiSDメモ리카ード／microSDメモ리카ードを取りはずすときは、必ずminiSDメモ리카ードまたはmicroSDメモ리카ード用の変換アダプターに装着したままの状態で行ってください。
- すべてのSDメモ리카ードの動作を保証するものではありません。
- SDメモ리카ードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- 著作権保護技術CPRMを使用するには、著作権保護技術CPRMに対応しているアプリケーションが必要です。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモ리카ードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

4 マルチメディアカードを使う前に

- すべてのマルチメディアカードの動作を保証するものではありません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属している説明書』を確認してください。

6 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（CD、DVD、USBフラッシュメモリ、メディアカードなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。

データ消去のための専用ソフトや、記録メディア専用のシュレッダーも販売されています。

3

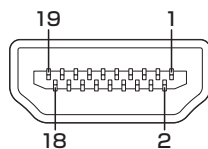
各インターフェースの仕様

1 HDMI 出力端子

付録

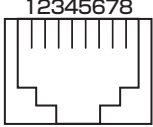
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TMDS Data2+	TMDSデータ (2+)	0
2	TMDS Data2 Shield	TMDSデータ (2) シールド	
3	TMDS Data2-	TMDSデータ (2-)	0
4	TMDS Data1+	TMDSデータ (1+)	0
5	TMDS Data1 Shield	TMDSデータ (1) シールド	
6	TMDS Data1-	TMDSデータ (1-)	0
7	TMDS Data0+	TMDSデータ (0+)	0
8	TMDS Data0 Shield	TMDSデータ (0) シールド	
9	TMDS Data0-	TMDSデータ (0-)	0
10	TMDS Clock+	TMDSクロック (+)	0
11	TMDS Clock Shield	TMDSクロックシールド	
12	TMDS Clock-	TMDSクロック (-)	0
13	Reserved	予約	
14	Reserved	予約	
15	SCL	シリアルクロック信号	0
16	SDA	シリアルデータ信号	I/O
17	DDC/CEC Ground	DDC/CEC信号グランド	
18	+5V Power	電源	
19	Hot Plug Detect	ホットプラグディテクト	I

コネクタ図



信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I) : パソコン本体への入力
 信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

2 LAN インターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	BI_DA+	送受信データ A (+)	I/O
2	BI_DA-	送受信データ A (-)	I/O
3	BI_DB+	送受信データ B (+)	I/O
4	BI_DC+	送受信データ C (+)	I/O
5	BI_DC-	送受信データ C (-)	I/O
6	BI_DB-	送受信データ B (-)	I/O
7	BI_DD+	送受信データ D (+)	I/O
8	BI_DD-	送受信データ D (-)	I/O
コネクタ図			
			

信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

3 USB3.0 インターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VBUS	+5V	
2	D-	USB2.0 マイナスデータ	I/O
3	D+	USB2.0 プラスデータ	I/O
4	GND	グラウンド	
5	StdA_SSRX-	USB3.0受信マイナスデータ	I
6	StdA_SSRX+	USB3.0受信プラスデータ	I
7	GND_DRAIN	グラウンド	
8	StdA_SSTX-	USB3.0送信マイナスデータ	O
9	StdA_SSTX+	USB3.0送信プラスデータ	O

コネクタ図

信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です

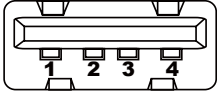
信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

4 USB2.0 インターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VBUS	+5V	
2	D-	マイナスデータ	I/O
3	D+	プラスデータ	I/O
4	GND	グラウンド	

コネクタ図



信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I) : パソコン本体への入力
 信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

4

OSの切り替えについて

* 対応しているモデルのみ

Windows 7をご利用になる場合、64ビットと32ビットの2つのWindows 7を選択してご利用いただけます。

ここでは、各OSのご使用上の注意事項や、OSを切り替える際の手順や注意事項を記載しています。OSを切り替える際には、必ずお読みください。

OSを切り替えるには、リカバリーをする必要があります。リカバリーについては、『困ったときは』を確認してください。

メモ リカバリーメディアの作成について

- Windows 7上で「TOSHIBA Recovery Media Creator」を使ってリカバリーメディアを作成すると、64ビット／32ビットの両方に対応したリカバリーメディアを作成することができます。64ビット／32ビットのどちらのWindows上でも、作成されるリカバリーメディアは同じです。リカバリーメディアの作成については『はじめに』を確認してください。

1 64ビットを使用する場合

1 64ビットのご使用にあたって

64ビットのご使用にあたって、次の事項を必ずお読みください。

- 64ビットのパフォーマンスを発揮するには、64ビットに対応したアプリケーションとドライバー類が必要です。
- 64ビットを使用する場合、64ビットに対応していないドライバーや周辺機器は動作しません。
- 64ビットを使用する場合、32ビット用のアプリケーションは動作しないものがあります。
- 64ビットを使用する場合、16ビット用のアプリケーションは動作しません。

2 64ビットを使用する場合の注意事項

本書や各種説明書は、32ビットを使用した場合の記載になっているため、操作や仕様などが、記載された内容と一部異なります。ここでは、操作や仕様が異なる部分について説明します。システムやお使いのモデルのソフトウェア環境によっては、このほかにも一部動作が異なる場合があります。

「Internet Explorer」について

64ビットには、64ビットの「Internet Explorer」と32ビットの「Internet Explorer」の2つがインストールされています。

インターネットのサイトの中には、「Internet Explorer」の64ビットでは正常に表示されないものがあります。

この場合は、「Internet Explorer」の32ビットをご利用ください。

2 32ビットを使用する場合

1 32ビットを使用する場合の注意事項

- 64ビット対応の一部機能を使用できないことがあります。
- OSが使用可能なメモリ領域は最大3GBになります。

3 OSを切り替える場合の操作と注意事項

OSを切り替えるには、リカバリー（再セットアップ）が必要です。

1 OSを切り替えると

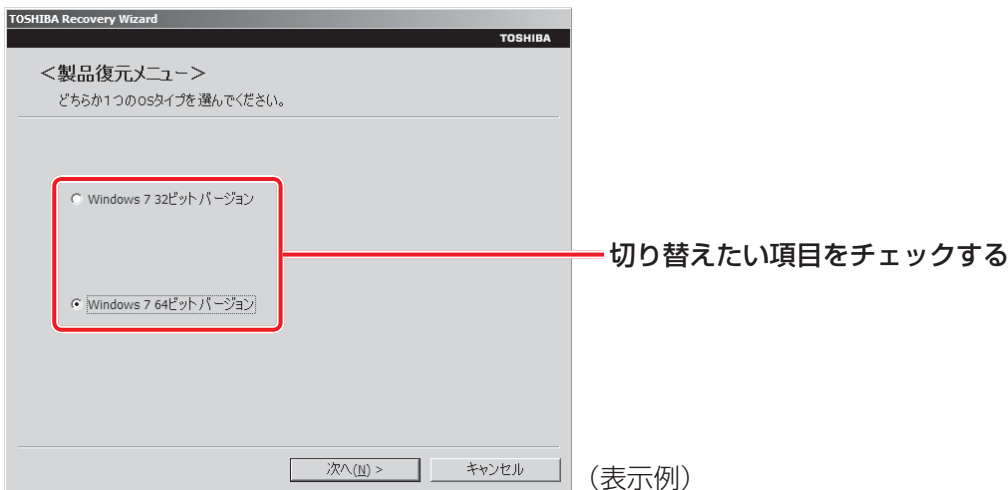
- プレインストールアプリケーションの構成が一部変更になります。
詳しくは、「本節 **1** - **2** 64ビットを使用する場合の注意事項」、「本節 **2** - **1** 32ビットを使用する場合の注意事項」をご確認ください。
- バックアップをとったデータが一部使用できない場合があります。
- 控えておいた設定が一部使用できない場合があります。

2 リカバリーをする前に

リカバリーをするとハードディスク内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windows ログオンパスワードなど）もご購入時の状態に戻ります。
リカバリーをする前に、記録メディア（CDやUSBフラッシュメモリなど）にバックアップをとってください。また、リカバリー後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。

3 リカバリー方法


リカバリーの手順や詳細は、『困ったときは』を確認してください。
リカバリー操作の途中で、次のような【製品復元メニュー】画面が表示されます。
32ビットに変更する場合には [Windows 7 32ビットバージョン] を、64ビットに変更する場合には [Windows 7 64ビットバージョン] をチェックして、[次へ] ボタンをクリックしてください。




4 Windowsの確認方法

Windows セットアップ終了後は、次の手順で、現在使用している Windows の種類を確認できます。

1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする

2 [ システムとセキュリティ] をクリックする

3 [ システム] をクリックする

4 表示された画面で、[システムの種類] を確認する



(表示例)

OpenSSLについて

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2011 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.

If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.

This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"

The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:

"This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]